

令和元年度第2回 山陽小野田市地方卸売市場運営協議会議事録

|      |  |
|------|--|
| 開催日時 | 令和元年10月2日(水) 13:30~15:40   |
| 開催場所 | 山陽小野田市地方卸売市場 会議室   |
| 出席者  | <p>小野田中央青果株式会社 代表取締役 深井 篤<br/>         小野田中央青果仲買人組合 組合長 高橋 泰男<br/>         青果市場買受人組合 組合長 河内 良満<br/>         山陽地区法人・担い手連絡協議会 会長 田中 覺<br/>         (株)三味 代表取締役 松村 正勝<br/>         消費者の会 会長 内藤 美恵子<br/>         山口県農業協同組合宇部統括本部 営農経済部長 松永 芳明<br/>         公募委員 岩本 信子<br/>         公募委員 草田 和枝<br/>         山陽小野田市 経済部長 河口 修司<br/>         (事務局)<br/>         山陽小野田市地方卸売市場 場長 高橋 敏明<br/>         山陽小野田市 経済部農林水産課 多田参与、坂根主幹、平係長、稲葉</p>   |
| 欠席者  | <p>フレッシュ 高橋 真也<br/>         学識経験者 村上 俊治</p>  |
| 会議概要 | <p>1 会長あいさつ</p> <p>2 議題<br/>         (1) 委員からの提案事項について<br/>         ○高橋委員から説明。<br/>         ・前回の協議会の中で、すでに提出していると言われていた提案書(市場再生活活性化計画(実行案)等)についての説明があった。</p> <p>○主な質疑・意見</p> <p>委 員：青果販売(株)の立ち上げを認めた状況を教えてほしい。<br/>         事務局：平成22年に卸売業者は小売業をできないということから設立した。販路の拡大・取引の拡大をしていくために設立した。</p> <p>委 員：中央青果の中に商事部という部門があり、やってはいけない小売りをしていた。これが条例違反にあたっていた。やってはいけないことをしていたということで、買う人からのクレームはなかったのか。<br/>         事務局：立ち上げ当初、買参人に迷惑をかけない形で小売業をすると説明し、了承をもらった。と聞いている。</p> <p>委 員：今の話は聞いたことがない。仲買人組合の集まりでいつも青果販売について問題になっている。<br/>         委 員：このようなことを決めた時の取締役会の議事録はないのか。<br/>         事務局：小野田中央青果の役員会の中で報告があったと認識している。<br/>         委 員：チェック機能である行政が、口頭だけの報告で了承することは問題なのではないか。</p> |

事務局：提案資料中の行政仲買人との業務連携とはどういうことか。

高橋委員：中央青果ありきであるが、行政・市場・仲買人組合が三位一体となって運営、業務連携を図るという提案である。

○岩本委員から説明。

・小野田中央青果の決算書から問題点を指摘し、新しい卸売業者（もしくは中央青果の体制を刷新）を検討する必要があるのではないかとの提案について説明があった。

・中央青果の前社長に会議に出席してもらい現状のようになった理由を説明してもらえば、市場活性化に向けての糸口が見えてくるのではないか。

○主な質疑・意見

会 長：岩本委員が資料であげている問題を一つ一つ解決しないと、また問題が起こってしまう。卸売業者を新体制にする。というこの二点提案との理解で良いか。

岩本委員：お見込みのとおり。

事務局：前社長の聞き取りについては、取締役会や株主総会でという発言もあったので、事務局としては発言を控えたい。

委 員：現在調査中であり、原因がはっきりわかった段階で取締役会に諮りたいと思う。

○松村委員から説明。

・株主のチェック機能が働かなかったことが問題であったと思う。

・販路拡大には営業力が必要であり、広い人脈と取引先を確保するためにも、経営センスを持ち営業が得意な方に代表取締役を務めてもらいたい。

・若い農家に市場に出荷してもらえるように営業してはどうか。

・地方の市場として「山陽小野田市」の特色を出し、「発信所」というのはどうか。

以上のような提案について説明があった。

○主な質疑・意見

委 員：消費者としては、地元のを安心して提供してほしい。また、地元の野菜をもっと地域の人に消費してもらえるように働きかけたい。

委 員：市場が「発信所」になるという提案は良いことである。行政が入っていることで発信所になりやすいと思う。発信所として販路を拡大し、市内の農家や若い農家を増やしてはどうか。また、「山陽小野田市産」を発信することが行政の仕事だと思う。販路拡大の一番の課題は、「営業力」であり、ここをどうするかだと思う。

○全体を通しての意見

委員：本協議会に出席していない専門家が今の市場の実態をわかっているのか。なぜ本市場の人気がないのか調査してみて、次のような意見をもらった。

- ・「注文する」、「注文を受けてどうするか」について迅速に対応できていない。対応できる人がいないのではないか。
- ・スーパー等からは、発注して翌日納品となっているのに、急遽、当日の朝になって商品がないということが多々あったので、取引をしない。また、このことが他業者にも伝わり、信用できないので、本市場から遠のいた。
- ・そういった背景には、学校給食を見込んで「安かろう悪かろう、高かろう悪かろう」でも平気で入れたり出したりしていて、誰がその元締めを行っていたのかが見えてこないから本市場を相手にしたくない。

委員：本運営協議会を月1回開催すること、本運営協議会の中の委員会という位置づけで、市場関係者（卸売業者、仲買人組合、行政）による会議を開催してほしい。

事務局：本協議会の月1回開催は可能である。市場関係者の会議については前向きに検討したい。

委員：市場関係者の会議にオブザーバーとして参加しても良いのか。

委員：参加しても構わない。

(2) 協議会として取り組むべき事項について

会長：議題(1)で出た意見を踏まえると、以下の項目について今後協議していくということで整理したい。

- ・市場の運営については、経営センスを営業力のある方があたるべきである。
- ・今後も継続して信頼できる市場づくりをしていく。
- ・運営協議会を密にする。
- ・市場関係者が集まり協議できる場を定期的で開催する。
- ・行政の関係機関とも連携し、取り組む。(例えば、学校給食)
- ・地元野菜をもっと評価してほしい。
- ・地域のスーパーと連携をとっていく。
- ・販路拡大について

(3) 今後の運営協議会について

- ・今後は月1回開催していく。
- ・協議会開催したときに次回開催日を決める。

次回開催日：令和元年11月6日(水) 13:30～

3 その他

前回の議事録について

→出席委員全員から承認をもらったので、ホームページにアップする。

議事終了

散会